

大学新時代  
革新する  
総合大学  
VOL.11

# 地球社会の様々なシステムに イノベーションを起こす人材が必要

現代社会では、ヒト、モノ、カネ、そして情報が国境を越えて行き交う「グローバル化」が急速に進行している。それに伴って、既存のシステムでは対応できない問題が数多く出現している。その解決には、グローバルな視点に立って、時代に即した新しいシステムを創造できる人材の育成が不可欠になる。そうした社会情勢を背景として、2017年4月、東洋大学が新設を構想しているのが、「国際学部グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>」である。グローバル社会において求められるイノベーションとは何か。東洋大学国際地域学部の荒巻俊也教授に伺った。

## イノベーションを 社会の変革の視点で捉える

これまでの日本では、イノベーションは科学技術の革新という意味で使われることが多い言葉でした。もちろん、「ものづくり立国」を標榜する日本にとって、それも重要なテーマです。けれども、急速なグローバル化の進行によって、現代社会は今、様々なシステ

ムに課題が噴出してきています。例えば欧州連合(EU)の経済情勢混迷が世界経済に影響したり、タイの洪水が日本企業に打撃を与えたりなど、経済のグローバル化は、特定の地域で起こったことが世界中に波及する状況を生んでいます。民族、宗教などの価値観の違いによる摩擦が対立を招き、世界全体での安全保障の構築も急務です。つまり、市場システム、金融システム、ガバナンス構造、国際組織など、社会や経済のシステムにおいても、新しい時代に対応できるイノベーションが不可欠になっているのです。

そうした時代のニーズを受けて、東洋大学が2017年度に開設を構想しているのが「国際学部グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>」です。イノベーションをキーワードとする国際系学科の開設は、日本の大学で初めての試みです。イノベーションを社会の変革の視点で捉えるという斬新なコンセプトのもとに、新たな社会システムを創造し、舵を切れるグローバルリーダーの育成を目指します。

## すべての授業を英語で実施 1年間の海外留学も必修に

グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>の



国際シンポジウムでのオーストラリア・カーティン大学の学生とのディスカッション

学びは経済や国際関係が中心になりますが、国際社会を舞台に活躍するためには、語学力とコミュニケーション力の養成も不可欠です。

そこで、定員の約30%で外国人留学生を受け入れ、キャンパス内で日常的な異文化交流を促進します。また、4年間を通して、すべての授業を原則英語で実施。さらに、日本人学生は2~3年次に1年間の海外留学を必修にします。そのため、早い段階でTOEFL500点以上をクリアできるように、特に1年次は英語科目を集中的に配置し、ハードなトレーニングを課す予定です。留学先は現在交渉中ですが、幅広い視野で世界全体のことを考える力を養成するために英語圏だけでなく、ヨーロッパやアジアの大学への留学も可能にする予定です。近年、若者の「内向き志向」が指摘されていますが、こうした密度の濃い教育システムによって、語学力や異文化理解力が向上し、将来、世界に羽ばたこうとする意欲が高まるはずで

す。1年間を4期に分ける「クォーター制」の導入も構想しています。柔軟な科目履修が可能になることで、海外留学や、事前・事後学習も含めたインターシップなども組み込みやすくなるメリッ

トがあるからです。

## 海外経験豊富な教員による 実践的な学びが充実

専門科目は3つの領域で構成されます。『グローバルシステム領域』は、すべての学生が共通に履修する領域です。「グローバル社会とガバナンス構造」「グローバル金融システム」「アジア経済の発展と日本」などを学びます。

その上で、学生一人ひとりの関心や、卒業後の進路に応じて、『国際ビジネス領域』『国際コラボレーション領域』のいずれかを深く専門的に学ぶ体制を構築します。『国際ビジネス領域』は、「多国籍企業と市場システム」「グローバル企業戦略と提携合併」「ファイナンシャルシステムの多様化」などの専門科目を開講。国際系企業で活躍するほか、自らベンチャーを起業する人材が育つことを期待しています。『国際コラボレーション領域』は、「国際メディア論」「多文化共生と国際組織」「教育の国際比較」など、文化、人材開発、メディアなどに焦点を当てる領域で、将来、国際機関、シンクタンク、NPO・NGOなどで、幅広い視野で世界の仕組みを創造できる人材を育成します。

教員構成にも大きな特色があります。多国籍企業、海外のシンクタンク、国際機関など、海外で実践的な活動経験豊富な教員を配置する予定です。

それによって、グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>で開講予定の「プロジェクトスタディー」も活性化するでしょう。この授業では、教員から提示されたグローバル社会が抱える課題について、学生がグループを編成して、その解決策を議論し、プレゼンテーションを行います。企業や行政と連携し、教員が実社会での経験を踏まえた課題を与えることで、実践的な「思考訓練」の場にな

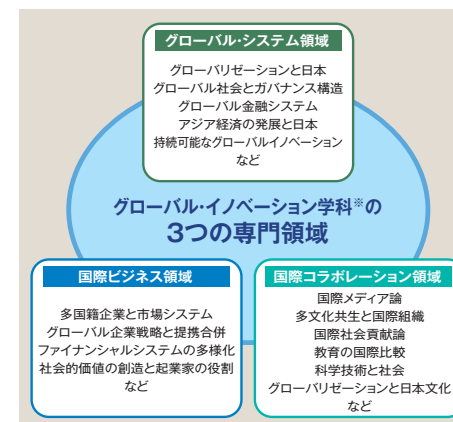
ることが期待できます。

さらに、海外の現場での研修の充実も構想しています。既存の国際地域学部国際地域学科(国際学部<sup>®</sup>に移行予定)では、2012年度、文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に採択されたことを受けて、アメリカ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、タイなどで、活発なフィールドワークを実施してきました。オーストラリアのカーティン大学の学生を招いて、毎年、国際シンポジウムも開催しており、昨年は、「谷根千」(東京の谷中・根津・千駄木)を本学の学生と一緒に歩き、文化や暮らしの違いについて議論しました。台風で甚大な被害を受けたフィリピンを支援するために、学生団体がNPOと共同プロジェクトを立ち上げるなど、学生の主体的な活動も目立っています。

グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>でも、こうした「現場主義」の学びを実践します。現場を知ることがイノベーションを起こす上で重要でもあるからです。どんなに画期的なアイデアであっても、それが地域に根付かなければ意味がありません。常に現場のニーズを把握して、実現可能なイノベーションを創出する姿勢を育みたいと考えています。

## 批判的思考力、行動力を高め、 既存システムに疑問を持つ

地球社会のシステムにイノベーションを起こすためには、単に世界の多様な文化を理解するだけでは不十分です。多様な価値観とぶつかる中で、相手の考えを理解しながら、日本人としてのアイデンティティも主張し、高い倫理観を



持って、自発的に判断し、行動する姿勢が重要になるのです。

グローバルイノベーション学科<sup>®</sup>では、この姿勢を基盤として、「批判的思考力」と「行動力」を高める教育を重視したいと考えています。なぜなら、イノベーションを起こすには、まず既存のシステムに疑問を感じる「批判的思考力」がなければならないからです。さらに、考えるだけでなく、きちんと行動につなげることが重要になります。その意味では、現場に積極的に飛び込んでいくフットワークの軽さも大切な資質になるでしょう。

また、東洋大学は2014年度、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援タイプB(グローバル化牽引型)」に採択されています。学生のグローバル対応力育成のための体制構築や、国際通用性の高い大学を目指した、様々な取り組みが進行しています。大学全体のグローバル教育強化と軌を一にして誕生する学科だけに、より充実した教育内容が期待できると考えています。そして、育成した人材が社会システムにイノベーションを起こし、新たな価値を創造することで、国際社会にインパクトを与えられるのではないのでしょうか。

(次回は、2016年3月28日号に掲載予定です)

※2016年2月現在、設置構想中。学部・学科名は仮称であり、計画内容に変更になる可能性があります。



東洋大学

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 TEL.03-3945-7571 (広報課) <http://www.toyo.ac.jp/>